

# 福岡工業大学 学術機関リポジトリ

## 英語学習支援 英語補習報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 福岡工業大学教育開発推進機構 公開日: 2023-09-06 キーワード (Ja): 英語学習支援, 英語補習, リメディアル教育 キーワード (En): 作成者: 原田 寛子 メールアドレス: 所属: 教養力育成センター
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11478/0002000020">http://hdl.handle.net/11478/0002000020</a>

# 英語学習支援 英語補習報告

原 田 寛 子 (教養力育成センター)

**Key words:** 英語学習支援・英語補習・リメディアル教育

## 1. はじめに

2022年度より学習支援センターが開設され、学習支援の体制が強化された。英語教育においても同年度から、英語に対する関心と英語力の向上を目的とし、英語学習を支援する環境を提供する取り組みを開始した。英語学習支援には2つの内容を用意した。一つは全学年対象の英語相談であり、国際連携室と協力し、英語の全般的な相談に応じる支援である。もう一つは、新入生を対象に英語の補習を行い、基礎力の強化、学習習慣の定着を図る取り組みである。開始にあたって、支援の趣旨、内容、目標(利用者計450名、補習出席率80%、関連科目合格率70%)について、学習支援センター委員会で報告をした。ポスターを作成し、学内での掲示や英語の授業での告知によって学生に周知を行った。本稿では主に、英語学習支援における、2つ目の取り組みである英語補習についての実践報告を行う。

## 2. 補習対象学生

新入生が入学後4月に受験するオンラインテスト「英語CAN-DOテスト」において、レベルA1.3に満たない学生を補習の対象とした。「英語CAN-DOテスト」受験者約1000名のうち該当者は39名であり、1名の自主参加学生を含め40名が補習の対象となった。対象者のうち基礎講座該当者は、数学5名、レポート5名、計10名であった。

## 3. 補習期間

補習対象学生に対し、4月25日・26日に説明会を行い、補習の意義、内容を伝えた。補習は5月

9日から開始し、7月14日までの10週間にわたって行った。補習は週3日(月・火・木曜日)、午後3時から5時までA棟3階の教室で行った。

## 4. 補習内容

1, 2年生対象の英語科目「English A-D」では、授業外学習としてリーディング教材 *Reading Express* を全員に配布し課題を課している。「English A-D」の受講生は、毎週1項目ずつリーディング課題を行い、英語教員が作成した解説動画を視聴し各自で答えを確認する。その際に、解説に合わせてノートを取り、翌週授業で担当教員が該当箇所をチェックしている。今回の英語補習では、この教材を用い、すでに学習した課題を範囲として、英語教員が独自に復習テストを作成し、補習教材とした。問題は全部で10問あり、記述問題を5問、選択問題を5問用意した。

## 5. 補習受講の流れ

補習は週3回、2時間ずつ行われた。担当教員は各日1名で、英語教員で順番に担当した。学生は時間内であればいつ来てもよく、入室後は補習のプリントを受け取り、課題教材を見ながら解答する。解答後は教員が採点し、間違えた箇所や質問に対してマンツーマンで解説・指導を行う。その際に、学生の英語科目の履修状況や理解度をヒヤリングした。各学生の点数や気になる点はエクセルファイルに入力し、次回担当者への連絡事項として記録した。また、学生のモチベーションを保つため、フィードバックシートを用意した。シートには、毎回の点数や気付き、次回への意気込みや改善点を記入できるようにし、英語学習に対

して振り返る習慣が付くように工夫をした。

学生とのマンツーマンのやり取りのなかで、20-30名の学生を前に行う授業では気付くことができない英語の習熟状況を把握することができた。英語が苦手という一人の学生は、英文をイメージで読んでおり、一つ一つの単語をなんとなくつなぎ合わせて理解していた。そうすると大まかな内容は合っているものの、細かい箇所では意味を取り違え、思い込みで理解していることが多くあることが分かった。そのような学生はテスト勉強においても暗記で済ませてしまうことが多いという。無理に全体を理解するよりも、1文でもいいので文法に照らして論理的に英文を理解するように指導を行った。このように、個別の指導によってアドバイスを伝えることで、それぞれが個人に合った目標を持ち学習に臨める環境を提供した。

## 6. アンケート結果

4月に行った説明会において、補習対象学生にアンケートを行った。アンケートでは、「英語補習を受ける必要性」「中学や高校、大学受験における英語の学習状況」「English Aでの学習・理解状況」について質問し、回答は4段階の選択肢からチェックをしてもらった。英語補習の必要性については、すべての学生が上位2項目である「とても必要」「まあまあ必要」にチェックをしていた。これまでの英語学習状況については、「十分に学習した」を選んだ学生はかなり少なかった。中学、高校では「まあまあ勉強した」が多く見られたが、受験勉強に関しては「あまり／ほとんど勉強していない」が多く見られた。中学から学年が進むにつれ英語学習の取り組みが減り、受験勉強においてその傾向が強くなっていると思われる。「English A」の授業での理解度は「おおむね理解できている」が最も多かったが、「あまり／ほとんど理解できていない」が40%ほどいた。

10週間の補習を終えて、最終週に再度アンケートを行った。「補習が英語学習に役立ったか」「英語学習に対する取り組みや気持ちが変わったか」

という問いかけに対して、4段階の選択肢のうち、上位2つの「役立った／変わった」「まあまあ役立った／まあまあ変わった」を選んだ学生がほぼ全員であった。どのように変わったかという自由記述欄には、以下のような前向きなコメントが多く見られた。

- ・積極的に予習に取り組むようになった。
- ・英語が分かるようになったら楽しいと思うようになり、もう少し頑張ろうという気持ちになった。
- ・これまで習った文法や単語を忘れていて問題が解けなかったから、自分を見直すことができた。
- ・真剣にやると手ごたえを感じるようになった。
- ・自分の成長につながった。

補習の時間帯や内容についても適切であったという回答がほとんどであった。1年生は履修する授業も多いため、正課の授業での課題が大変であると思うが、学生にとって負担になり過ぎることのない適切な補習の実施であったと思われる。

## 7. まとめ

補習にあたっては、先述のように、出席率80%、関連科目合格率70%という目標を提示した。結果は、出席率は58%であったが、関連科目（「English A」）の合格率は80%であった。

英語学習支援におけるもう一つの支援内容である、国際連携室での英語相談においては、前期51名、後期39名の学生が利用した。国際連携室独自の様々な取り組みに伴い、海外研修参加相談、短・中・長期留学相談、英会話レッスン申込、英語力向上相談などがあり、授業に関する質問はわずかであった。授業以外で英語を学ぶきっかけとして、今後も多くの学生に利用を呼びかけ、国際連携室の各種プログラムへの参加へつながるよう、働きかけていきたい。

補習の出席状況と単位取得状況を考察すると、3点の気付きがある。1つ目は、必ずしも補習の必要がない学生が対象になっている可能性があるということである。対象学生40名中、説明会も含め

一度も参加しなかった学生は11名であったが、その中で「English A」の単位を取得できなかった者は2名のみであった。補習での学生との会話の中で、「英語 CAN-DO テスト」受験の際に通信が切れ点数が伸びなかったということも耳にした。このような不測の事態もあるため、補習の対象となる学生を正確に選ぶことは難しく、対象者の選定にはミスマッチが起こっていることが考えられる。逆に補習を受けるべき学生が対象になっていない可能性もあるため、補習対象者の選定には今後工夫が必要である。2つ目は、補習の効果が表れていない学生が数名いたことである。ある程度は補習に出席し、学習状況の確認や指導は受けたものの、単位取得には至らなかった学生の中には、強化部に所属する学生、基礎講座の対象学生がいた。これらの学生の中には、入学時における学力が十分とは言えない学生もいる可能性があるため、今後も学習の方法や必要性について継続的に丁寧な指導が必要と思われる。3つ目は、補習にも一度も参加せず、単位も取得できなかった学生が数名いたことである。個々の学生へのヒヤリングはできなかったが、英語だけでなく他にも苦手教科が多くあるのではないかと、また、大学生活において余裕がない状況なのではないかと推察される。1つの科目の様子からだけでなく、授業の履修状況や単位取得状況など全般に渡って、学科や教務課とも連携してケアすべき必要も感じられた。

2022年度は英語学習支援の初年度ということもあり、手探りで行うなかで準備不足や予期せぬ変更など対応が必要なことも多くあった。マンツーマンの指導では、教室では汲み取りにくい、学生の英語の授業に対する問題などを具体的に聞くことができ、今後の授業改善にもつながった。また、アンケートの結果においても、対象者の英語学習に対する向き合い方の変化も見られ、今回の補習に関しては、概ね良い結果が得られたと思われる。一方で、補習の対象者は40名と少人数であったが、時間をかけてマンツーマンで指導ができるように週3回2時間ずつ時間を取ったところ、

通常業務に加えての補習担当は英語教員には負担が大きく感じられることもあった。今後は、形態を変えて実施することも視野に入れ、英語学習支援を継続していく予定である。

## 付録



英語学習支援ポスター

2022年度 英語補習 フィードバックシート

学習者名 氏名

Ranking Express	目的	学び・感じたこと・疑問点	満足度
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

英語補習用フィードバックシート